

カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュース 一緒に飲んでもだいじょうぶ？



監修◎東京大学大学院薬学系研究科 客員教授

NPO法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンター 副理事長・センター長

澤田 康文 先生

「天ぷらと西瓜」「うなぎと梅干」一江戸時代の昔から、“食い合わせ”といわれてきたものです。こうした“食い合わせ”は、現代の栄養学では信じられていませんが、最近、薬と飲食物には“飲み合わせ”のわるいものがあることが注目されています。

その1つが、高血圧や狭心症の治療によく使われるカルシウム拮抗薬と、グレープフルーツジュースです。これを一緒に飲むと、薬の種類によっては血圧が下がりすぎたり、顔のほてり、頭痛、ふらつきなどの副作用があらわれることがあります。

* * *

カルシウム拮抗薬に限らず、のみ薬はおもに小腸で吸収された後、一度肝臓を通過してから全身に運ばれます。カルシウム拮抗薬は、小腸や肝臓を通過するときに化学変化(代謝)を受けて、一部が薬効のないものになり、一部が体内に入っていきます。一方、グレープフルーツジュースの中にはカルシウム拮抗薬の小腸での代謝を遅らせる成分が含まれています。(グレープフルーツジュースの中に血圧を下げる成分があるわけではありません。)

したがって、カルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースを一緒に飲むと、カルシウム拮抗薬の代謝が遅れてたくさん吸収され、体内での薬の濃度が高まり、薬が効きすぎたり、副作用があらわれる可能性が出てくるのです。グレープフルーツの実を食べる場合も注意が必要です。

アムロジピンはカルシウム拮抗薬の一つです。

アムロジピンとグレープフルーツジュースを一緒に飲まないようにしてください

* * *

しかし、すべての人にこのような相互作用が起こるわけではありません。また、カルシウム拮抗薬の種類によっても、相互作用の起こりやすいものと起こりにくいものがあります。さらにグレープフルーツジュースを飲んでから、相互作用が3~4日続く薬もあります。「私が飲んでいる薬は大丈夫だろうか?どう注意したらよいのだろうか?」心配な方は、医師または薬剤師に遠慮なく相談してください。

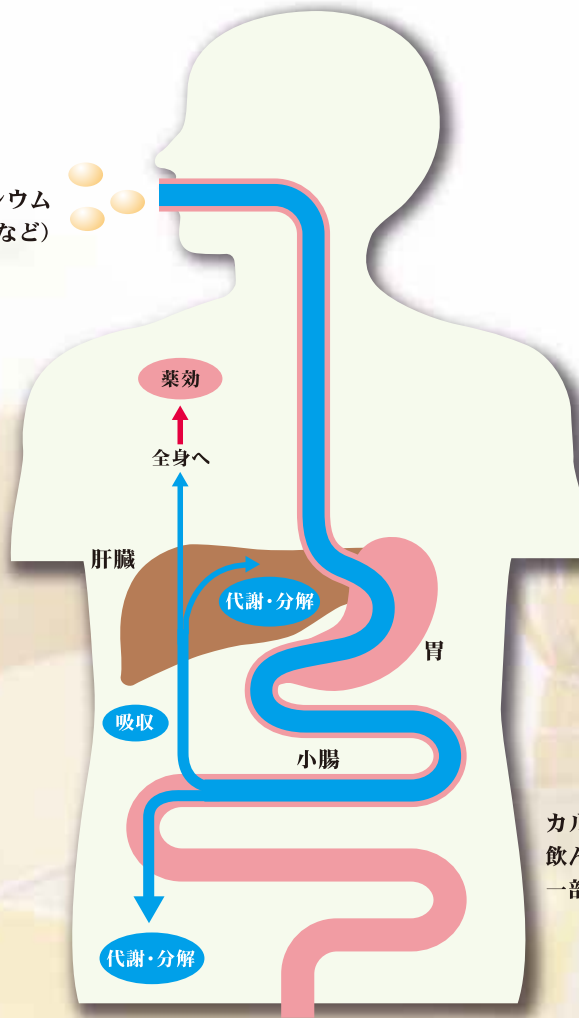
カルシウム拮抗薬

高血圧や狭心症などの治療に使う薬の一群であり、日本では現在、十数種類使用されています。

カルシウム拮抗薬と グレープフルーツジュースの相互作用

のみあわせ

のみ薬
(カルシウム
拮抗薬など)



カルシウム拮抗薬は、
飲んだ後小腸や肝臓で
一部、代謝・分解を受けます。

	相互作用を受けやすい薬剤	相互作用を受けにくい薬剤
水で服用した場合	<p>服用 → (小腸) 吸収 → 全身へ → 適度な薬効</p> <p>↓ 代謝・分解</p>	<p>服用 → (小腸) 吸収 → 全身へ → 適度な薬効</p> <p>↓ 代謝・分解</p>
グレープフルーツジュースで服用した場合	<p>服用 → (小腸) 吸収 → 全身へ → 効きすぎ・副作用</p> <p>↓ 代謝・分解</p>	<p>服用 → (小腸) 吸収 → 全身へ → 薬効はあまりかわらない</p> <p>↓ 代謝・分解</p>
全身へ入る薬の量	水 << グレープフルーツジュース	水 ≈ グレープフルーツジュース

- 自分の飲んでいるカルシウム拮抗薬がどちらに属するか、医師または薬剤師に聞いてください。
- グレープフルーツの実を食べる場合も、同じように注意が必要です。 ●オレンジジュースは問題ありません。